



茗溪 かながわ

MEIKEI

NO.10

発行 神奈川茗溪会 (旧 茗溪会神奈川支部) 発行者 矢野正人

平成 29 (2017) 年 6 月

前神奈川茗溪会 会長

清水 進一 氏

追 悼



清水進一先輩と

一緒にして

神奈川茗溪会会長代行

大畑 多津雄

自分が仕事で一緒にさせていた
だったのはたった一年間だけでし
たが、それがまさに先輩が教職に
携わった最後の一年間でありまし
た。自分から見た先輩の仕事ぶり
は「念入り」であり、だからこそ
「簡潔」であり「気配り」の届い
たものであったと思います。そし
て学生に対する指導の場面での

「面倒見の良さ」については、本
当に頭の下がる思いでした。
そうした先輩だからこそ定期的
に受けていた血液検査や骨髄液の
検査の結果で、長期入院を余儀な
くされた際、先輩の助言指導を求
める本学学生、筑波大学生に対し
声をかけられない無念さはいかば
かりであったか、先輩の学生を大
切にする思いを考えると胸が痛く
なります。

出勤した日にはその体調にもか
かわらず、寸暇を惜しむかのよう
に仕事に打ち込んでいました。定
期検査の結果によっては、また職
場の長期離脱を迫られるかもしれ
ないといった不安の中での取り組
みだったと思います。

そうした先輩の足跡を考えるに
つけ、最後の春に瑞宝小綬章を受
章することができて本当に良かった
と思います。

叙勲を祝う会は先輩がお亡くな
りになる三か月前のことでした。
叙勲に際しての先輩のお話では、
出だしは声もかすれていて本当に
苦しそうでしたが、話が進むにつ
れ教師魂に火がついて、病気を患
っているのがウソのように、実に
生き生きと力のある声で話し通さ
れました。

後で聞いた話ですが、自宅へ戻
った後、あまりのお疲れで、しばら
く横になっていたとのこと。どう
いう状況にあっても決して手を抜
かず、その場その場を全力で取り
組む先輩の姿勢をつくづく感じさ
せられたお話でした。

早いもので先輩が亡くなられて
から半年以上が経ちました。
先輩が大好きだった桜が咲き、
いたるところ新緑におおわれた春
から今や初夏。季節はどんどん変
わっているのに、神奈川工科大学
教職教育センター支援室には、ま
だ先輩の空気が残っています。

先輩が懸命に取り組まれた本学
学生および筑波大学生の進路実現
を、微力ではありますが全力で引
き継いでいきたいと考えていま
す。
先輩のご冥福をお祈りいたしま
す。

神奈川茗溪会会長
矢野 正人

清水進一（S四三年教大数）前会
長におかれましては、平成二八年
一〇月二一日朝に永眠されまし
た。ここに心から哀悼の意を表す
とともに謹んでお知らせ申し上げ
ます。

清水前会長は平成二一年度に茗
溪会神奈川支部長に就かれ、今年
度総会で神奈川茗溪会（旧茗溪会
神奈川支部）会長を退任なさるま
で、四期八年にわたり、会の運営や
会員のために全力を注がれまし
た。

また、会の運営につきましても、
持ち前の指導力と行動力を発揮さ
れ、事務局を中心とした総会運営
や様々な企画を打ち立て、会の組

織や運営を盤石になさいました。
任期中中に、茗溪会の一般社団法
人化に伴い、本会を茗溪会神奈川
支部から神奈川茗溪会へと改称
し、神奈川支部の独自性を打出し
ていく方針を示されました。

茗溪の先輩とわかれは無条件に
敬服し、茗溪の後輩だとわかれば、
なにをさしおいても手を差し伸べ
る。清水前会長が度々口になさる
言葉でした。

まさに、茗溪に生きた茗溪人で
ありました。御冥福をお祈りいた
します。

清水進一先輩との 出会い

横浜翠嵐高校校長 佐藤 到

佐藤 到

平成一〇年四月、私が勤務していた県立寛政高校に新任の校長が着任しました。その人が清水進一校長でした。とてもパワフルで、毎日生徒のことを考え行動していました。一番の思い出は北海道修学旅行です。帰りの船の中で、団長として引率された清水校長の部屋に数人の生徒が「遊戯室に麻雀があるから、そこでやってもよいか」と詰め寄ったそうです。清水校長から相談を受けた私は、「こんな揺れている船の中で麻雀なんかやったら気持ち悪くなります。半チヤン一回だけやらせていいと思います」と半分叱られることを覚悟して答えました。結果は「良かった。君の判断に任せる。」おそらく私たち教員が日頃生徒指導に苦慮している生徒なので、関係づくりのひとつとして考えてくださったのかと感謝しています。案の定生徒たちは、はじめですぐにやめてしまい、「先生ありがとう」と自分たちの部屋に戻っていききました。その後、部屋に呼ばれ、日頃の生徒指導の悩みをいろいろと聞いていただきました。

また、着任してすぐに生徒を理解したいと、三年の生徒全員と個人面談をさせていただきました。当時三年の担任をしていた私のクラスも「校長先生と話をしてもらった」と喜んでいたことを思い出します。

職員に対して、成長のための様々なチャンスを与えてくれました。私は筑波中央研修に推薦していただきました。それまで授業や担任、部活動指導のことしか考えていませんでしたが、この研修に参加して全国の中堅教員と研修を重ねるうちに、学校運営のおもしろさを実感することができました。この経験が後の再編統合による鶴見総合高校開校準備室専任として学校づくりを考える上で大いに役立ちました。私が教頭になった時も、すぐに電話をいただき茗溪会の会合に誘っていただきました。小学校から大学まで一度も同窓会に顔を出さなかった私の意識を変えてくれたのも清水先生でした。

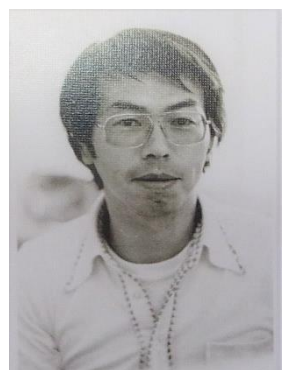
いつも生徒の前に立ち、顔の見える関係を築きながら指導されていた清水校長、職員の将来のことを考え次のステップへのチャンスを与えてくださった先生の姿は、いつしか校長になった私の学校経営の原点になっていました。本当にありがとうございます。(S五七筑三社工)

清水氏の足跡を 訪ねて

訪ねて

清水進一氏は、昭和二〇年七月にお生まれになり、御自身が昨年度の総会講演で語られたように「敗戦後の日本をまるごと生きて」こられました。

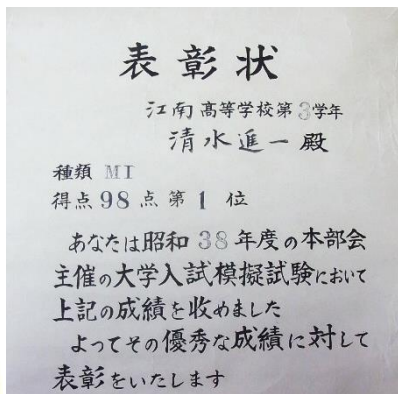
神奈川県立平塚江南高校を卒業し、東京教育大学に進まれましたが、高校在学中には県の教科研究会作成のテスト(のちの県一斉テスト)で優秀な成績をおさめられ、表彰を受けていられます。



その後、昭和六〇年に県立総合教育センター指導主事となって以降は、教育行政に長く携われ、高校教育課長、指導部長、総合教育センター所長を歴任されました。

平成十九年に県を退職された後は、茗溪会の活動に深く関わられて、特に東京教育大と筑波大の卒業生の絆を強めることや、教職員中心の組織からの脱却に尽力されました。

過日、奥様に御協力いただき、清水氏が生前身につけられていた遺品を撮影することができましたので、掲載させていただきます。あの力強いお声が、今にも聞こえてくるような気がします。



大学卒業後は、県立柏陽高校を振り出しに教員生活を始められました。二校目の勤務校である松陽高校勤務時代の卒業アルバムには、青年時代の面影を残した写真が掲載されています。(右下)



昨年の十二月十七日(土)、中華レストラン煌蘭藤店において、懇親会が開催されました。

今回は、川田孝一顧問、矢野正人会長、大畑多津雄会長代行、西村宗一郎顧問をお招きし、教育職関係者二十八名が集いました。

この会は、関係会員相互の交流に加え、前年度退職の会員の歓送も兼ねており、今回は前年度退職者の掛原豊様(前吉田島総合高校長)のご出席をいただきました。

平成 28 年度 管理職等の会



加藤充洋(新城高校校長)、中野久美子(岸根高校副校長)両氏の司会進行により、故清水進一前会長への黙祷の後、発起人代表・林忠氏(大和高校長)の辞で開会。

歓談のあと、終盤に大石進氏(城山高校長)の指揮のもと、恒例の宣揚歌「桐の葉」を声高らかに斉唱・力強いエールを上げ、佐藤到氏(横浜翠嵐高校長)の閉会の辞で座を締めくくりました。

添野龍雄 (S五七筑二農)

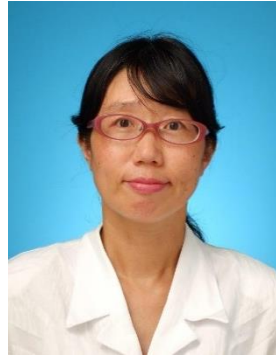
茗溪の水は筑波の

もとに……

若手会員からの寄稿

合田素子

茅ヶ崎リハビリテーション専門学校



私は筑波大学第一学類人文文学類を卒業後、大学院教育研究科、心身障害学研究科に在学して、心身障害学、特に言語障害学について学びました。

現在は茅ヶ崎リハビリテーション専門学校に所属しています。当校は神奈川県・東京都内で病院などを運営するふれあいグループの学校部門の中で、看護学校に続く二番目の学校として一九九九年に開校しました。来年度二〇一八年には創立二十周年を迎えます。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士を養成する四学科があり、私は言語聴覚士の学科にかかわっています。入職する以前は茨城県内の病院で、脳血管障害の後遺症である失語症

運動障害性構音障害の患者さんを主としてサポートする言語聴覚士として勤務していました。縁があって故郷の神奈川県に

教員として戻り今年で十年目になります。

病院では患者様と一対一でかわっていましたので、数十人の学生さんに対応することに最初とまどいがありました。

そんなときは在学時に受けた附属中学や附属特別支援教育学校での教育実習での助言「個々ではなく全体を見て」を思い出しながら懸命に努めてきました。つい一人に注目しすぎて近視眼的になっていた教室での授業も、十年目になりようやく全体を見回すことができるようになってきました。

入職時は高校卒業者を対象とする四年制の学科でしたが、二〇一二年からは大学卒業者を対象とする二年制の学科に改正し、二年制となつて今年で六年目になります。最近、最初に教えた四年制課程の卒業生からの結婚などの嬉しいお便りが入つたりし、言語聴覚士の後継者を育てているという喜びが日々湧いてきます。「石の上にも三年、初心忘るべからず」の言葉をかみしめながら、この次の十年も懸命に努力していきたいと思えます。

(H三筑一人文)

佐藤文哉

県立大磯高校教諭

筑波大学を卒業し、新採用として神奈川県立大磯高等学校で働き始めて早いもので四年目を迎えました。わからないことしかない状況でスタートしましたが、少しずつ教師という仕事にも慣れてきました。しかし、生徒とのかかわり方や授業の方法など、まだまだ勉強していかないといけないことが多いと感じる毎日です。

昨年度は一年生の担任として、初めてクラスを経営を行い、本当に充実していました。授業以外にも生活の部分であったり、進路指導であったり、メンタル面でのサポートであったりと大変なことももちろん多いですが、その分やりがいがあり、自分が成長できたと感じました。

また、授業の面では、国立教育政策研究所の指導を受け、学習評価の研究に取り組み、新たな視点で授業を考えることができました。

今年度は二年生の担任を持っています。今年は修学旅行があり、行事でも中心になり、進路指導についても考えなければならず、本当にやるべきことがいっぱい毎日あつという間に時間が過ぎていきます。生徒と一緒に自分も成長できるように頑張っていきたいと思えます。

仕事充実していく中で、改めて感じることは、大学時代の友人の大切さです。社会人になつてからの面白かったことや大変なことなど、なんでも話せる友人ができたのも筑波という土地のおかげだと思います。大学を卒業して三年がたちましたが、今でも定期的にお互いの近況を報告しています。そして、

会ったときには必ず大学時代の話になり、筑波の話でとても盛り上がりります。

大学時代にボランティアで児童養護施設の子どもたちに勉強を教えたことは、私の教師生活の原点の一つになっていますし、そのころの筑波の話を今の高校生たちは興味深く聞いてくれます。

これからも筑波で得た思い出や、友人を大切にしながら頑張っていきたいと思えます。

(H二六筑理工)

若手交流会

昨年十一月十九日(土)、五回目の若手交流会が開催されました。毎年恒例となり、今回は十三名の参加となりました。大学時代の懐かしい話題やお互いの近況報告、さらには筑波大学の最近の様子の報告等が話題に上りました。皆さんの母校への愛を感じます。そんな時間を毎年

る事で茗溪の仲間になりつつあるように思います。

若手交流会は、「筑波大を卒業し、神奈川県内の企業・官公庁等で働くようになる人達が必ずいる。その若手の人が同窓のネットワークづくりをできるように若手交流会を開催しよう。」という目的で始まりました。



今年度も秋に開催予定です。卒業予定の大学生が内定式を終えた後の時期でもあります。そこで、「就職祝い」の意味を込めた会にできれば良いねとテーマも決まりました。新社会人はもちろんのこと、同窓の若手のサポートをしようという心意気のある方の参加をお待ちしています。

高橋一郎 (H一九筑土工)

会員の皆様

神奈川茗溪会
会長 矢野 正人

神奈川茗溪会の総会と懇親会のご案内

青葉若葉のみぎり、会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のほどお喜び申し上げます。

さて、神奈川茗溪会の総会と懇親会を、下記の要領で開催いたしますので、どうぞ、お誘いあわせの上、奮ってご参加くださるようご案内申し上げます。

記

開催日時 平成29年7月22日(土) 11:00～(受付 10:45)

開催場所 ローズホテル横浜 (☎ 045-681-3311)

●JR 根岸線「石川町(北口)」より徒歩10分

●みなとみらい線「元町・中華街駅」より徒歩1分

<http://www.rosehotelyokohama.com/content/access>

日程 総会 11:00～12:00 宴会場(2階)

講演会 12:15～13:00 宴会場(2階)

中道徹氏『ジェネリック医薬品をめぐって』(仮題)

懇親会: 13:15～15:30 ボール・ルーム(2階)

※当日、参加者人数により、会場が変更となる場合がございます。

懇親会費等 懇親会費等 10,000円(支部会費 1,000円を含みます。)

※当日、受付にて申し受けます。

※本部会費 3,500円/年 の納入も受け付けております。

● ご出欠席の返信 7月6日(木)までに、返信用はがきにてお知らせください。

● 支部会費納入のお願い 当日ご参加できない方は、同封の払い込み用紙にて支部会費(1,000円/年)を納入くださるようお願い申し上げます。なお、ご夫妻で会員の方につきましては、ご案内を1通とさせていただきます。ご了承ください(支部会費はお一人分で結構でございます)。

○ご不明の点は、事務局、または以下の地区委員までお問い合わせください。

○住所変更や不明会員の情報などありましたら、事務局または地区委員までお知らせください。

事務局長 加藤 充洋 (s56 筑一社) 090-1618-6152 katosan.nedoved@icloud.com

川崎地区【川崎市】

委員 西村 宗一郎 (s51 教大植) 045-362-7010

委員 南 敏章 (s52 教大数) 045-945-2086

横浜地区【横浜市】

委員 佐々木 悦子 (s46 教大体) 045-784-0670

委員 望月 正大 (s51 教大数) 045-812-0281

横三・湘鎌地区【横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、三浦郡、茅ヶ崎市、藤沢市、高座郡】

委員 鈴木 彰 (s49 教大地) 0467-52-5354

委員 瀬木 明 (s52 教大応数) 090-1040-3612

平秦・西湘地区【平塚市、小田原市、中郡、足柄上郡、足柄下郡、南足柄市、秦野市、伊勢原市】

委員 細谷 俊一 (s47 教大生化工) 0465-77-2046

委員 山田和彦 (s53 教大農) 0462-88-1504

北相地区【厚木市、海老名市、綾瀬市、大和市、座間市、相模原市、愛甲郡、神奈川県外】

委員 大島 恵子 (s46 教大植) 042-715-0317

委員 本木 幹雄 (s50 教大体健) 090-3817-3402